

津波の心得

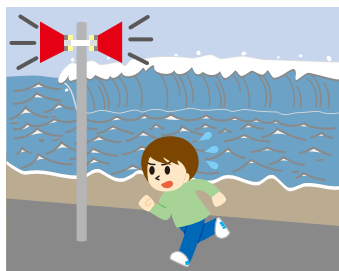
津波から身を守るためには、とにかく逃げるしかありません。迅速な対応で早めに避難すれば被害を軽減できます。また、一度津波が引いたとしても油断は禁物です。津波は2回、3回と来襲し、第一波より大きい場合もあります。注意報や警報が解除されるまでは、海辺や河川には決して近づかないようにしましょう。

小さな揺れでもまず避難

地震の揺れは小さくても大津波の危険性があります。明治三陸地震津波(明治29年)では、震度3程度だったにもかかわらず、予想に反して大津波が発生しました。

家で情報を待たずに、すぐ避難する

家で情報収集するのではなく、避難しながら携帯ラジオなどで情報を収集するか、安全なところに避難してから情報を収集しましょう。



津波の破壊力は凄まじい!

浸水深が2mになり、そのときの流速が毎秒4mを超えると、木造住宅ごと流されるおそれがあります。



津波の速さはもの凄い!

津波の速さは、沖合ではジェット機なみの速さで伝わります。水深が浅くなるにつれて速度は弱まりますが、それでも深さ10mの海岸近くでは、短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。

津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。

実際に津波が見えなくても、迅速に避難することが大事です。



津波の第1波が一番大きいわけではない

津波は2波、3波と何度も繰り返し来ます。必ずしも第1波が一番大きい場合とは限りません。津波警報が解除されるまで、海岸に近づくことはせず、高台の避難所にとどまることが大事です。

津波が50cmくらいなら低いから大丈夫と思っていたら大変なことになる

50cmの津波でも、秒速およそ2mで海底の砂や砂利を巻き上げてやってくると、身体には0.3トンの力が働きます。そうなると立っていられずに転倒し、津波と一緒に流されてしまいます。

津波は引き波で始まるとは言えない

津波は引き波で始まる場合もあれば、押し波で始まる場合もあります。先に引き波が来た時は、潮が引いて、普段見えない海底が現れたりしますが、それを津波と知らず近寄ると、次に来る押し波にさらわれる危険があります。

津波警報が発表されたら迅速に避難することが大事です。

